

(6) 2016年(平成28年) 1月7日(木曜日)

毎年新しい年が始まると、私たちは新年の抱負や目標などを考え、期待しつつ生活を送るものですね。ある調査によると、2015年度アメリカでの新年の抱負ベスト3が、①健康であること②体重を減らすこと③充実した人生を送ること、でした。それゆえ、新年になると人々はスポーツジムに行き、新規入会の人たちで大いに混雑しますが、2月に入る頃にはその数は減り始め、普段のジムの落ち着きを取り戻すそうです。だから、新年の抱負に1、2番が毎年挙げられるのです。う。

この3つの抱負はいずれもなじみあるものですが、3番目の充実した人生を送ることは、新年というよりも、人生の抱負といえます。では、その充実した人生を送るためには何が必要なのでしょう？ 安定した収入？ 健康？ 良い人間関係？ もちろん必要ですね。では、希望ある心

の抱負といえます。では、その風邪ひとつ引かない健康状態でも、心に希望が無ければ、とても充実した人生を送ることは出来ないでしょう。しかし、希望ある心を持つていけば、たとえ収入や健康状態が満足なものでなく、充実した人生を送れるのではないのでしょうか？ 実際には困難な状況の中にいな

らも、人々を勇気付け、力となつて人たちがいます。そんな彼らの人生は、大変充実したものに見えます。例えば、ヘレン・ケラー。彼女は見えな、話せない、聞こえないという三重苦を背負って生きた人でした。その姿を私たちから見ると、健康を害するどころか、人生において、絶望という文字が目に見えなくなります。

しかし、ヘレンは違いました。3つの障害を乗り越え、ラドクリフ女子大学(今のハーバード大学)を卒業までしました。これだけでも十分素晴らしいことであり、私たちに希望と励ましを与えてくれるものですが、その後も、彼女は世界中の人々を力付け、日本へは3度訪問しました。そして、87年間の人生を全うしたのです。彼女を支えたものの中心に、キリスト教信仰がありました。そのキリスト教の土台となる聖書に閉じて、ヘレンは次の言葉を残しています。

「私が毎日、もっとも愛読する書物、それは聖書です。私の辞書に『悲惨』という文字はありません。聖書はダイナミックな力であり、変わる事のない理想を示すものです」

南加キリスト教教会連合

人生の抱負

池田 恒次

自分の辞書に悲惨という文字は無いと言いつつ、三重苦の試練を背負って来られた人々を勇気付け、励ます一生を送ったヘレン・ケラー。その希望に満ち、充実した人生を送った彼女をいつも支えたのは、聖書に基づくキリスト教信仰だったのです。(ウインターズバーグ長老 教会牧師)